

1 題材名 「1人でやってみよう！」

2 題材について（別紙1参照）

生徒Aの障がいは、知的障がいのある自閉症である。繰り返し経験した内容であればスケジュールを活用して1人で取り組める力や報告時に指導者を意識して目線を合わせてカゴを渡すなどの対人意識が育ちつつある。しかし、初めての場所や慣れない活動になると受身的で指導者の指示を持つことが多いことや自分から他者との関わりをもつことが少ないということが課題としてあげられる。加えて、指導者が手本を見せるとやり方を理解して取り組む力は育ちつつあるが、生活経験が乏しいために道具の活用の仕方が分からなかったり、手元を注視し続けることが難しく指先の細かい動きが苦手だったりと生活場面や学習場面において困難さが見られる。これらのことは自立活動構成図（6区分での実態把握）やS-M社会生活能力検査の実態把握の結果からも明らかである。また、国語に関しては、文字はひらがなとカタカナの読みはできるが文字カードを使った単語構成を間違えることがある。数学に関しては、1から10まで数えることができ、ものを5個ずつ分けることもできるようになった。

こうした実態を踏まえ、本題材では、構造化された環境の中で主体的に学習に取り組む力や要求等を他者に伝えるなどの対人関係スキルを高めることをねらいとした学習を設定している。身の回りの視覚的な情報を手がかりに行動することができる力が生まれれば、直接的な支援が減り、より主体的に生活することに繋がる。カードを使い意思表示することができれば、コミュニケーションの幅が広がっていく。これらの力を高めていくことは、将来の質的向上に繋がると考える。加えて、手元を続けて注視しなければならぬ活動を加えている。注視できる力を高めることは、手作業の正確性があがったり、見本通りにものを組み立てたりと作業能力の向上に繋がりと、将来の就労の幅が広がることに繋がっていくと考える。また、教科学習として、文字の構成を学ぶことは語彙を増やし、数概念を育てることは、できる仕事の幅を広げることに繋がると考える。また、ものを10個ずつに分ける力を身に付けることは、将来働いたときに商品等を数ごとに分ける仕事に繋がっていくと考える。以上の理由から本題材を設定した。

指導にあたっては、生徒が準備・片付け、課題や要求カードに自分から手を伸ばすことができるように生徒の自発的な動きを待ち、見守ることを基本として行う。また、自発的に動けるようにするために、スケジュールや手順書を用意したり、課題等の置き位置をテープでマークしたりするなどの視覚的な支援を取り入れる。絵カードでの要求を受けるときには、対人意識を高められるように指導者に目線を合わせて要求を伝えたときに絵カードを受け取るようにする。後に他の指導者や同じ学級の人に要求する機会を広げていきたい。自発的に活動の準備、片付けや相手の顔を見て報告や要求ができたときには、生徒が自信を持てるように、しっかりと称賛をしていきたい。

3 題材目標（別紙1参照）

〈自立活動〉

- ・視覚的な支援を手がかりにして、自発的に活動に取り組むことができる。心—1、環—3
- ・指導者に絵カードを使って報告や必要なものの要求をすることができる。人—1、コー4
- ・手元を継続して注視しながら活動に取り組むことができる。環—4、身—5

〈国語〉

- ・平仮名、片仮名カードで単語を構成することができる。

〈数学〉

- ・ものを指定された数ずつに分けることができる。

4 指導計画（47時間扱い）

第1次 個別学習（できることを増やそう）（20時間）

第2次 個別学習（1人でやってみよう）（本時 31／47時間）

5 本時の目標

生徒名	本時の目標	指導計画目標	教育支援計画目標
	8つの力項目と番号	※関連がある箇所	※関連がある場合
生徒 A	<ul style="list-style-type: none"> 視覚的な支援を手がかりにして、自発的に課題に取り組むことができる。 中重一心①、小一働（ス）② 指導者に絵カードを使って必要なものを要求することができる。 小一コ②、中単一働（ス）① ピンセットの先を継続して見ながら丸綿を10個容器に移すことができる。 平仮名カードで4文字の単語を5個構成することができる。 フォークを10本ずつ分けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> スケジュールを操作して行動することができる。 困ったときに絵カードを使って指導者に伝えることができる。 平仮名、片仮名カードで4文字の単語を10個構成することができる。 ビーズやペン等、指定されたものを10個ずつ分けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> スケジュールを操作して行動することができる。 報告や要求を1日10回程度、絵カードで行うことができる。

6 本時の展開

学習活動	○つきたい力 ★教師の支援	評価
1 あいさつをする。 2 準備をする。 3 個別課題に取り組む。 (自立課題)	○視覚的な手がかり（スケジュール、マーク）を手がかりにカゴ（課題の入った）を自発的に準備したり、片付けしたりすることができる。 ★カゴを返す場所が分かるようにテープでマークをする。	<ul style="list-style-type: none"> 視覚的な手がかりを活用しながら自分からカゴの準備や片付けをすることができたか。 自分から要求することができたか。
課題 ○ピンセットの活用 ○文字カードを使った単語の構成 ○数の概念（1～10）	○必要なものがあるときに、絵カードを使って要求することができる。 ★自分から必要なものがあるときに要求に行かない場合は絵カードを取るように身体支援をする。 ○ピンセットの先を継続して見ながら丸綿（色つき）を10個容器に移すことができる。 ★注視して丸綿を同じ色の枠に入れられるように、容器の枠ごとにそれぞれ色をつけておく。 ○平仮名カードで4文字の単語を5個構成することができる。 ★単語の構成を間違えやすいものは、見本（単語を表す文字）を提示する。 ○指定されたものを10個ずつ分けることができる。 ★数を間違えているときには、10分割された容器を渡し、フォークを入れて数を確認するように促す。	<ul style="list-style-type: none"> ピンセットの先を継続して見ながら丸綿を容器に移すことができたか。 平仮名カードで4文字の単語を5個構成することができたか。 ものを10個ずつに分けることができたか。
4 対面課題に取り組む。 (生徒A対面課題) ○棒さし 5 あいさつをする。 6 片付けをする。		

7 場の設定

